

佐渡米通信

こめへる

2019年 02月号

発行日:2019年2月

編集人:佐渡農業協同組合 営農事業部米穀販売課 山田・藤巻
beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp

2019年の米づくりがスタートしました

JA佐渡では平成20年から、減農薬減化学肥料の取組を始め、農家に供給するすべての種子に温湯消毒を行っています。温湯消毒は、熱湯に一定時間種子をつけることで、農薬を使わずにカビや細菌の発生を防ぐことができます。温湯消毒施設で行われた作業の様子をご紹介します。



供給する種子はこのような米袋で保管されています。



種子を4kgごとネットに入れます。品種ごとにネットの色を分けています。



温湯消毒の証明書がネットの中に入れて、中身がこぼれないようにバンドで口を締めます。



熱湯に10分つけて消毒します。これはすべてのうるち・もち・酒米でも同じです。今年は約153tの消毒が行われます。



水を飛ばした種子は、乾燥室に入れて一晩乾燥させます。その後、米袋に詰め直され、農家に出荷されます。



水からあげられた種子は、機械にかけて脱水します。



お湯につけた後は、冷水を使って冷まします。水は温くならないように、絶えず流しています。

いちごの出荷目合わせが行われました

1月24日に、いちご(越後姫)の出荷目合わせが行われました。出荷目合わせは、これから春にかけて出荷が本格的に始まるため、出荷規格の統一が計られました。最初に出荷報告が行われた後、参加者はいちごの色をカラーチャートと見比べたり、パックの詰め方を越後姫出荷規格基準で確認したりしました。



トキ情報

1月24日にレッドリストの改訂版が発表され、「野生絶滅」とされていたトキが、1ランク低い「絶滅危惧IA類」に見直されました。トキは2008年の放鳥から数を増やし、現在では約350羽が佐渡の空を飛んでいます。これから繁殖期に入りますが、順調にヒナの数が増えることが期待されています。

5年間繁殖できるトキが継続しているため、今回見直されたそうです。

